



ふくしまが
おいしい理由



*Think Delicious,
Think Fukushima*

理由わけが おいしいおいしいが ふくしまふくしまが



Think Delicious,
Think Fukushima

ふくしまプライド。とは

福島県の人々が、日々努力し、誇りを持ってつくりあげてきた、農作物や県産品、観光サービスなどを、広く全国の方々に伝える福島県のコミュニケーションメッセージが、「ふくしまプライド。」です。

福島県のひとつひとつの農作物や県産品、観光サービスに「つくる人の誇り」が詰まっていることを伝えていくメッセージです。

農作物、県産品、観光サービスなど、福島県で生まれ、つくられ、その価値を誇るものであれば、この「ふくしまプライド。」という言葉とともにPRすることができます。

このメッセージが広まっていくことで、日本全国の人が、福島県でつくられたものを見ると、そのものに「つくる人の誇り」を感じるようになることを、そして、福島県のものを選ぶことにも誇りを感じるようになっていただくことを目指しています。

ふくしま産地マップ



Contents

TOPIC 01・02・03

安全・安心への取組
日本橋ふくしま館 MIDETTE
ふくしまプライド。ポータルサイト P.37

ふくしま農林水産物カレンダー

P.38-39

米	P.02-03	
もも	P.04-05	
日本なし	P.06-07	
ぶどう	P.08-09	
りんご	P.10	
会津身不知柿	P.11	
あんぽ柿	P.12-13	
きゅうり	P.14-15	
トマト	P.16-17	
アスパラガス	P.18-19	
いちご	P.20-21	
そば	P.22	
ほんしめじ	P.23	
なめこ	P.24-25	
福島牛	P.26-27	
会津地鶏	P.28-29	
川俣シャモ	P.30-31	
ヒラメ	P.32-33	
海産物	P.34-35	
伝統野菜	P.36	

ふくしまの

「米」^{わけ}がおいしい理由



お米の美味しさに最も影響する時期が、穂が形作られてから米の粒が育つ7月～9月です。この時期の福島県の気候は、日中は晴れて気温が高く、夜間は低めという日較差があり、これがふくしまのおいしいお米をつくります。これに加えて、清らかな水、そし

て長年先人が育ててきた豊かな土壌など、おいしいお米の生産に欠かせない条件が福島県には揃っています。

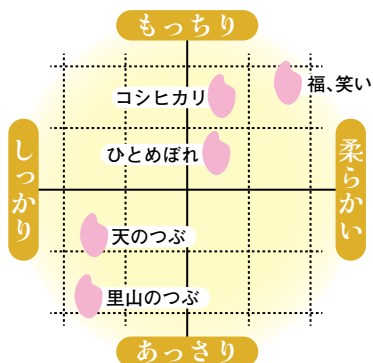


稲穂の生育過程 (5月～10月)

個性が光るふくしまのお米

福島県の気候風土に合わせて開発された県オリジナル品種「福、笑い」「天のつぶ」「里山のつぶ」は、実は福島県内でしか作付けされていないお米です。食感や味わいに個性がある福島県産米から、お好みのお米を見つけてみてください。

また、令和7年度には高温に強く食味の良い新品种「福島59号」が、県内に広めていく県奨励品種に新たに採用されました。令和10年のデビューを目指して、令和8年度以降、品種名公募や品種登録手続きが進められます。



※五つ星お米マイスター小久保一郎さん監修

おもな品種の特性

コシヒカリ

福島県内で最も栽培面積の多い銘柄です。ふっくらとつやのある炊き上がりで、うまみ・香り・甘みが強く、食感はもちもちとしています。本来のお米のおいしさがダイレクトに感じられます。

ひとめぼれ

柔らかい口当たりの良さが魅力です。味と粘りのバランスが良く優しい食感です。クセのないさっぱりとした味わいでさまざまな料理と合わせやすく、和食との相性が非常に良いです。

天のつぶ

福島県のオリジナル品種です。穂が出るときに、天に向かってまっすぐ伸びる稲の力強さと、天の恵みを受けて豊かに稔る一粒一粒のお米をイメージして命名されました。炊き上がりがふっくらで粒がそろった美しいお米です。粘りは少なめで食べ応えのある食感です。



里山のつぶ

福島県のオリジナル品種です。県内の冷涼な里山で広く栽培される品種になって欲しいとの願いを込めて命名されました。粒張りが良く大粒で、しっかりとした食べ応えです。適度な粘りと旨みがありながらあっさりとした味わいです。



福、笑い

福島県のオリジナル品種であり、ふくしまのお米のトップブランドに位置付けています。「日本一の米をつくりたい」という想いで開発し、認証GAPを取得し、登録制度で認められた生産者だけが栽培できる特別なお米です。「香りが立ち、強い甘みを持ちながら、ふんわり柔らかく炊きあがる」という個性的な食感・食味が持ち味です。



ふくしまの

「もも」がおいしい理由



くだもの王国“ふくしま”を代表する「もも」は、7月から9月まで、長い間楽しめます。では、「ふくしまのもも」がおいしい理由とは？

- ももは、もともと暖地を好む果物であり、主産地の福島市や伊達市等は盆地性の気候で、夏は暑く強い日射しが降り注ぐことから、ももの樹の生育に適し、甘さをたっぷり含んだおいしいももができます。
- 果実に袋をかけない栽培方法で、太陽の光をたっぷり受けて、色付きが良く、より甘いももに育ちます。
- 産地に継承された技で、より大きくおいしいももへ進化し続けています。
- 主力品種の「あかつき」をはじめ、選び抜かれた食味の良い品種のももがたくさん生産され、夏から秋にかけて、おいしいももを楽しむことができます。

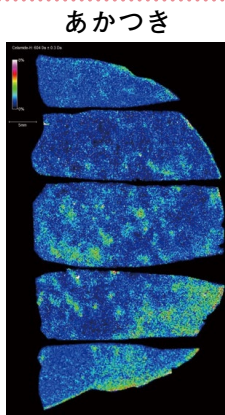


≡「もも」にはセラミドが含まれている≡

ももには、肌の保湿を助け、潤いを守る機能を持つ成分である「グルコシルセラミド」が含まれています。

「あかつき」や福島県オリジナル品種の「はつひめ」、「ふくあかり」を分析した結果、果肉全体に「グルコシルセラミド」が分布していることがわかりました。

出典：福島県農業総合センター研究成果



明るく見えるほどセラミドが多く含まれている

≡「あかつき」誕生秘話≡

ふくしまのももは県内外に広く知られていますが、その立役者となった品種が「あかつき」です。昭和27年、当時の農林水産省園芸試験場で味も良く、日持ちする品種を育成し、昭和35年より本県を含むもも生産県で試作されましたが、小玉であったため、他の県はすべて商品化が困難と見切りをつけ栽培を中止しました。しかし、あきらめなかった県が1県だけありました。それが福島県です。

福島県園芸試験場（現福島県農業総合センター果樹研究所）で生産者とともに改善を重ねた結果、果実の肥大が良くなる栽培技術を確立しました。昭和54年、福島に関係した名前ということで「信夫三山暁まいり」にちなみ「あかつき」と名付けられ、安定した品質が評価され面積が増加していきました。現在では、福島県で生産されるももの約半分を占めています。

おもな品種の特性

はつひめ 福島県が育成したオリジナル品種です。早生種としては果実が大きく、着色、甘さに優れ、食味も良好です。

ふくあかり 福島県が育成したオリジナル品種です。早生種としては果実が大きく、着色が良く多汁で甘みが強い品種です。

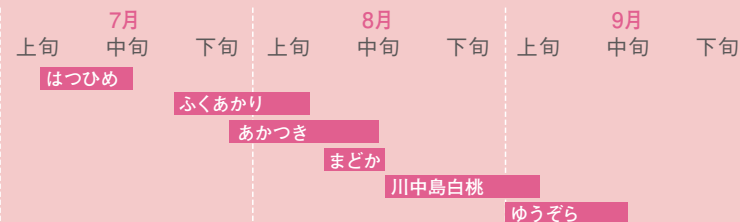
あかつき 県内のもも生産量の約半分を占める県を代表する品種です。肉質がち密で糖度が高く、最上級の食味を持ちます。

まどか 「あかつき」の後に出荷される大玉で着色が良く甘みが強い品種です。

川中島白桃 「あかつき」の次に多く栽培されている大玉の品種です。着色が優れ、甘く、しっかりした果肉を持ち日持ちも良好です。

ゆうぞら 滑らかな果肉と上品な甘味で、極上の食味を持つ品種です。外観もきれいで一度食べれば、ファンになることまちがいない。

収穫時期



ふくしまの

「日本なし」

がおいしい理由



福島県の日本なしの産地は、太平洋岸の浜通り地方と吾妻連峰、安達太良連峰など奥羽山脈の山々を西に望む中通り地方に広く分布しています。

これらの地域には共通して、温暖な気候と豊かな水、ほど良い土質の土壤など、日本なしの栽培に適した自然環境が備わっています。

特に、福島市笹木野萱場地区は、吾妻連峰の麓にあり100年以上の歴史を持つ「萱場梨」の産地です。ここは、寒暖差が大きく、水はけの良い土壤を有する、なし栽培の適地であり、古くから脈々と栽培技術が受け継がれ、産地の味が守られています。

おもな品種の特性

幸水

県内の栽培面積の約4割を占める代表品種です。甘味が強く、みずみずしくシャリシャリした食感で、さわやかな香りを持つおいしい品種です。



豊水

「幸水」の収穫に続く主力品種です。果実は大きく、甘みと酸味のバランスが絶妙で濃厚な食味を持ちます。「幸水」とは違ったおいしさをお楽しみください。



二十世紀

歴史は古く、さわやかな甘さとみずみずしい食感で、根強い人気のある品種です。

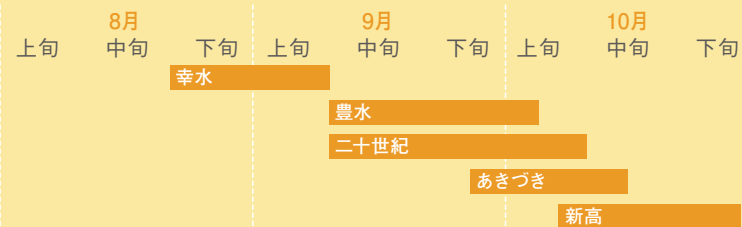
あきづき

果重が500g程度になる大きな品種で、たいへん甘く、歯切れの良い食感と果汁の多さが特徴の、極上の食味を持つ品種です。

新高

果実は500～600gと特に大きく、硬めの果肉で貯蔵性に優れています。糖度が高くて食味が良く、保存して長い期間おいしく食べることができます。

収穫時期



ふくしまの

「ぶどう」

わ け
が おいしい理由



福島県のぶどう栽培は、明治時代に県南地方に導入されたのが始まりです。主要産地である県北地方には大正時代に導入され、当時は、ブドウ酒やジュースの加工用の原料が中心でした。

現在は、中通り・会津地方を中心に産地が形成されており、特に中通りでは、「巨峰」や「ピオーネ」などの大粒の品種に加え、「シャインマスカット」などの優良品種の導入が進んでいます。

「高尾」については、栽培の難しさから希少なぶどうと呼ばれており、全国でも生食ぶどう全体の面積のわずか0.3%しかありませんが、県内では県北地方、会津地方を中心に研究・栽培がされており、県内の栽培面積は全国の約半分を占めています(令和3年度)。

ぶどう栽培では、品種に適した温度の範囲があるため、各地域の気象条件により品種が選ばれています。また、適度な降雨により生育は順調に経過し、おいしいぶどうとなります。

おもな品種の特性

あづましずく 福島県が育成したオリジナル品種です。大粒の種無しぶどうで、酸味が少なく甘みが強いのが特徴です。

巨峰 県内で多く生産されている品種です。果汁が多く、甘みが強いのが特徴で、上品な香りもお楽しみいただけます。

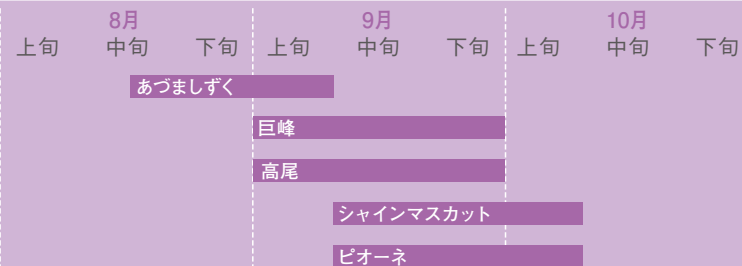
高尾 紫黒色の種無しぶどうです。大粒で、コクのある濃厚な味わいは、極上の品質とされています。

シャインマスカット 美しい黄緑色が特徴の品種です。糖度が高く、皮ごと食べられることから、人気を集めています。



ピオーネ 果実は巨峰よりも大きく、紫黒色の品種です。強い甘みの中に酸味があり、すっきりとした味の特徴です。

収穫時期



ふくしまの

「りんご」

がおいしい理由



「ふじ」と蜜入り

主力品種の「ふじ」は、花が咲いてから果実が成熟するまで、約200日という長い期間が必要です。そして、今ではおいしさの象徴となっている“蜜入り”には、樹上で完熟することが必要です。ふくしまでは、「ふじ」が収穫期を迎える晩秋～初冬期の気象条件が暖かすぎず寒すぎず、「ふじ」の完熟に適した条件となります。完熟してたっぷり蜜の入った「ふじ」は、蜜の持つ独特の風味と歯触りの良い食感で、極上の食味となるのです。

「まぼろしのふじ」

ふくしまの完熟「ふじ」は、かつては、そのおいしさから産地での直接販売が多く、市場にあまり出回らなかったことから「まぼろしのふじ」と呼ばれていました。

おもな品種の特性

つがる 夏から秋への季節の移り目に、さわやかなりんごの香りと甘さを届けます。 出荷時期 8月下旬～9月上旬

シナスイート 甘味が強く、果汁豊富でシャキシャキとした食感が特徴です。 出荷時期 9月下旬～10月中旬

王林 酸味が少なく甘みが強い、さわやかな香りの黄色のりんごです。福島県桑折町で誕生しました。 出荷時期 10月下旬～11月上旬

ふじ 県内の栽培面積の7割を占めます。果汁が多く、甘酸バランスの良い濃厚な味に蜜の風味とシャキッとした歯ざわりが加わり、食味は極上です。完熟した蜜入り「ふじ」は全国の消費者の方々から好評を博しています。 出荷時期 11月上旬～12月上旬

べにこはく 福島県が育成したオリジナル品種です。着色・蜜入りが良好で、果汁が多く濃厚な食味が特徴です。 出荷時期 11月下旬～12月下旬

ふくしまの

「会津身不知柿」

がおいしい理由



晩秋限定！会津伝統の至福の味!!

会津地方で古くから栽培されている“会津身不知”という品種の名前の由来は、「枝が折れるほどたくさん実をつける」「あまりのおいしさに我を忘れて食べ過ぎてしまう」など諸説あります。

上品な甘さとたっぷりの果汁、トロツとした食感と滑らかな舌触り。一度食べたら忘れることのできないこの味を、ぜひお試しください。

会津の自然が生んだ、地域の特産品

「会津身不知」は、その名のとおり、会津で古くから栽培されている地域性の高い渋柿品種です。広がりが少ない品種だからこそ、会津の味として名前が知られる地域特産品です。

会津の厳しい冬を乗り越える生命力を持つ柿の樹は、雪解けとともに一転してさわやかに晴れわたる温暖な気候の下、豊かな雪解け水が運ぶ肥沃な土壌で栄養をため込み、「会津身不知」ならではの絶品の味を生み出します。

≧ 毎年皇室に献上の伝統品 ≦



皇室献上柿

つややかで美しく贈答品としても人気がある会津身不知柿は、毎年皇室に献上されることでも知られています。出荷最盛期は11月です。晩秋限定、会津伝統の味を

ふくしまの

「あんぽ柿」^{わ け}がおいしい理由

福島県を代表する冬の味覚「あんぽ柿」。干し柿と同じ乾燥果実の一種ですが、一般の干し柿とは大きく異なり、表面はしっとり、中はトロツとしたゼリー状の果肉は、上品で濃厚な甘さとやわらかな口当たりが魅力です。

伊達地方を中心とする主産地では、加工が本格化する11月になると、気温が低下し、乾いた風がよく吹くようになり、あんぽ柿づくりに最適な気象条件となります。40～60日間程度、時間をかけてじっくりと、果肉の内部まで均一に乾かすことで、おいしいあんぽ柿ができあがります。



≪「あんぽ柿」誕生秘話≫

真っ黒な干し柿が軒下に吊るされている光景を目にすることがあります。皮をむいた柿をそのまま乾燥すると黒変してしまいます。

あんぽ柿は、皮をむいた果実を硫黄くん蒸することで、あめ色に輝くきれいな色に仕上がります。柿の硫黄くん蒸法は、カリフォルニアの干しぶどうづくりで行われていた技術を応用し、大正11年(1922年)、伊達市梁川町のいさざわ五十沢地区で確立され、令和4年で100年目を迎えました。

地理的表示(GI)保護制度登録

令和5年1月31日に、「伊達のあんぽ柿」が地理的表示(GI)保護制度に登録されました。



“あんぽ”の名前の由来

宝暦時代(1751～1763年)に、上五十沢峯集落の七右衛門という人が、どこからか柿の樹をもってきて植えた「七右衛門柿」を皮剥きして天日で乾燥させたものを、江戸時代には天干柿あまほしがきと名付けていたとされ、これが転じて「あんぽ柿」と呼ばれるようになったと言われています。

県内のあんぽ柿産地

柿は県内で広く栽培されていますが、あんぽ柿と言えば県北部の伊達地方(伊達市、国見町、桑折町)が代表産地で、県全体の出荷量の約99%(令和元年)を占めています。主な品種は、先がとがった形の「蜂屋」が約8割を占め、四角い形の「平核無」が約2割となっています。

出荷は、11月下旬より小粒で甘みの強い「平核無」から始まり、12月上旬より大きくて食べ応えのある「蜂屋」が出回り、品種毎の味わいの違いが楽しまれています。

伝統産業「あんぽ柿」の復活!

東日本大震災に伴う原子力災害の影響で、主産地の伊達地方などでは2年連続で加工自粛を余儀なくされました。真冬に行った柿の樹の洗浄作業や放射性物質の全量検査体制の整備などにより、平成25年度に、3年振りに悲願の出荷再開を果たしました。全国のファンの皆さまにお届けできるよう徐々に生産量を増やしています。



ふくしまの冬の極上の逸品「あんぽ柿」をぜひ味わってください。

ふくしまの

「きゅうり」

がおいしい理由



ふくしまのきゅうりは県内各地で栽培されており、夏秋期の収穫量日本一の産地です。食べた時のみずみずしさや、ぱりっとした食感は、夏の味覚の代表と言えるでしょう。

今でこそ栽培技術の進歩等で、1年中出回っているきゅうりですが、やはり夏が1番の旬です。ふくしまのきゅうりは、大消費地に近い地の利を生かして、採れたての新鮮さを食卓に届けられることが最大の魅力です。

きゅうりの効能

- 体内の老廃物を排泄し、血液を浄化する効果があります。
- 95%が水分なので、体温を下げる効果があります。
- 多く含まれるカリウムは体内塩分排出を助ける働きがあります。
- 利尿作用があります。

「きゅうり天王祭」

県内の主産地である須賀川市ではきゅうり産地ならではのお祭り「きゅうり天王祭」が毎年7月14日に開催されます。2本のきゅうりをお供えし、護符代わりとして別の1本を持ち帰り、それを食べると1年間無病でいられるとされています。



きゅうり天王祭

≧会津の伝統野菜「^{よまさききゅうり}余蔘胡瓜」≦

見ためはとげとげしくゴーヤや瓜に似ていますが、食感はとても軟らかく濃厚な味が特徴です。

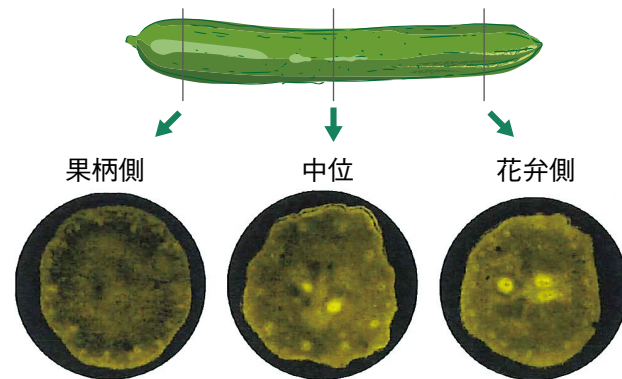


≧「きゅうり」に含まれるビタミンCは種子の周りや果皮の内側に多い≦

きゅうりに含まれるビタミンCを部位別に測定した結果、果実の真ん中(中位)から先端(花弁側)にかけて、また、種子の周りや果皮の内側に多く含まれていることがわかりました。

ビタミンCは、コラーゲンの生成に必須の成分であるだけでなく、最近では抗酸化作用による様々な病気の予防効果が期待されています。

出典：福島県農業総合センター研究成果



明るく見えるほどビタミンCが多く含まれている

≧「キュウリビズ」でPR≦

J A全農福島が「クールビズ」をヒントに考案した造語です。キュウリビズのポスターを作成するなど、きゅうりの消費拡大を図ってきました。現在は東北6県で統一的なキャンペーンを展開しています。

ふくしまの

「トマト」

わ け
が **おいしい理由**



ふくしまのトマトは、県内各地で栽培されており、福島県を代表する野菜です。それぞれの気象条件を生かした栽培で、産地ごとに特徴があります。



標高が高く冷涼な地域

夏の太陽と昼夜の温度差によって、甘味と酸味のバランスのよいトマトが生産されており、品質の高い夏秋トマトとして人気を呼んでいます。特に夜温の下がる秋の味は格別です。

海沿いの温暖な地域

比較的温暖な気候で、特に冬季間の日照量が多いことから、大規模な温室で年間を通してトマト生産が盛んです。太陽の恵みを受けて真っ赤に育ったトマトは、旨み成分が多く、身が引き締まってしっかりとした味となります。



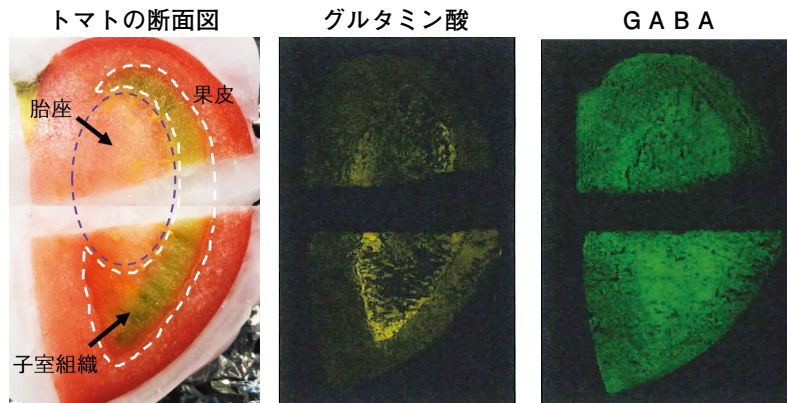
大規模温室でのトマト栽培

≡完熟した「トマト」にはアミノ酸が豊富に含まれる≡

完熟した夏秋トマトには、アミノ酸のなかでも、グルタミン酸、GABA（ギャバ）、グルタミン、アスパラギン酸が豊富に含まれています。

特に、うまみ成分の一つ「グルタミン酸」や、血圧降下、抗ストレス作用があると言われる「GABA」は、種子の周りのゼリー状部分（子室組織）などに多く含まれていることがわかりました。

出典：福島県農業総合センター研究成果



明るく見えるほどグルタミン酸、GABAが多く含まれている

≡南会津地方のブランド野菜「南郷トマト」≡

「南郷トマト」は、南会津地方の特産品で、50年を超える歴史の中で培った栽培技術と、南会津特有の昼夜の気温差が生み出した甘みと酸味のバランスがとれた良質な味・品質が特徴です。長い歴史の中で培われた栽培技術向上に対する組織的取組が品質の安定・向上につながっていることや、40年以上にわたり年間2千トンを超える生産が行われていることが評価され、地理的表示(GI)保護制度に登録となりました。



地理的表示(GI)保護制度登録

平成30年8月6日に、「南郷トマト」が地理的表示(GI)保護制度に登録されました。



ふくしまの

「アスパラガス」



がおいしい理由

春の訪れは、アスパラガスを長い休眠から目覚めさせ、畑の雪どけ水と根に蓄積された糖分を利用して、甘くてみずみずしいアスパラガスに育ちます。

アスパラガスは、夏から秋にかけて作った養分を、根に糖分として蓄え、春までの間、雪の下で静かに休眠します。

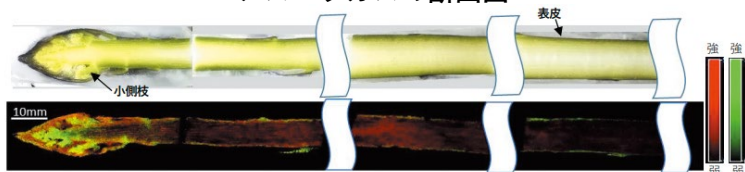
春のアスパラガスは、うま味とコクがたっぷり凝縮しているのです。

一方、夏秋期のアスパラガスは、太陽の光をたっぷり受けて、若芽がすくすくと生長したものが収穫され、さっぱりとした味わいになります。大地の恵みを受けた、ふくしまならではの味わいです。

アスパラガスには多様なアミノ酸が含まれています。

アスパラガスには、グルタミン酸(うま味成分)は茎の中心部と穂先に、GABA(抗ストレス作用)は茎の表皮と穂先に多く含まれていることがわかりました。 出典:福島県農業総合センター研究成果

アスパラガスの断面図



明るく見えるほどアミノ酸が多く含まれている (GABAが緑、グルタミン酸が赤)



愛情たっぷり機能性もたっぷり

一度植え付けると、8~10年程度同じ株を管理をするため、土づくりが大変重要となります。生産農家は、良質な堆肥を十分に投入し、細やかな栽培管理のもと、愛情を込めて生産しています。

アスパラガスには、その名が由来のアミノ酸「アスパラギン酸」が多く含まれています。うま味成分の1

つであることに加え、疲労に対する抵抗力を強め、疲労回復を早める働きがあります。ふくしまのアスパラガスで元気いっぱいになりませんか？

紫のアスパラガス!? 福島県が開発した品種です!

アスパラガスの品種開発をしている県は、全国でも数県しかありません。その一つが福島県です。紫色のオリジナル品種も開発しており、色とりどりのアスパラガスがふくしまにはあります。

ふくきたる

春の萌芽が早く、太くて食べごたえのあるものが多いので、いち早く旬の味覚を味わうことができます。

ハルキタル

食感が柔らかく、形が良いグリーンアスパラガスです。

はるむらさきエフ

収穫物の色が紫色で、グリーンアスパラガスと比較して甘みが強く、軟らかい食感です。また、ポリフェノールのルチンやアントシアニンがいっぱいです。

グリーン・ホワイト・紫・ピンクのアスパラガスII

グリーンアスパラガスや紫アスパラガスが太陽の恵みをたっぷり受けて育ったのに対して、ホワイトアスパラガスやピンクアスパラガスは伸びる若芽に太陽の光が当たらないようにして栽培したものです。品種ではなく、栽培方法の違いで、ホワイトやピンクになります。国内でも珍しい彩り豊かなアスパラガスを是非ご賞味ください。



ふくしまの

「いちご」^{わけ}がおいしい理由



福島県のいちごは、冬の日射量が豊富な地域から豪雪地帯まで、各地の気象条件を生かした栽培が行われています。

甘酸っぱくて生のまま手軽に食べられるいちごは、ビタミンCを豊富に含み、カリウムが多く、ナトリウムが少ないため、利尿作用や高血圧の予防に効果があると言われています。

いちごは、幅広い層に好まれていることから、より一層のおいしさを求めて、全国各地で品種改良が行われ、次々と新しい品種が誕生しています。

≡ふくしまの想いが伝わる輝くいちご 2022年冬、待望のデビュー≡

「ゆうやけベリー」は、ほおぼるたび、口いっぱい、心いっぱいに、幸せがゆうやけのように広がります。一粒一粒から明日への輝かしい希望を感じられるいちごです。

福島県が「かおり野」と「とちおとめ」を交配し、5,433個体から選抜を重ねました。延べ20か所での現地試験を経て、交配から約10年の月日をかけて2022年に誕生しました。

「ゆうやけベリー」という名前は、「橙色を感じさせる鮮やかな赤色を表現している」という理由で、全国から募集した1万7,732点の中から選ばれました。



県が育成したオリジナル品種の特性

ふくはる香 大粒で強い甘味と程よい酸味のバランスが良く、子どもから大人まで幅広く人気の品種です。果実の形も特徴のあるきれいな長円錐で、贈答用としても大変喜ばれています。

ゆうやけベリー 糖度が高く酸味が控えめで、甘さがグッと際立つ味わいが特徴です。

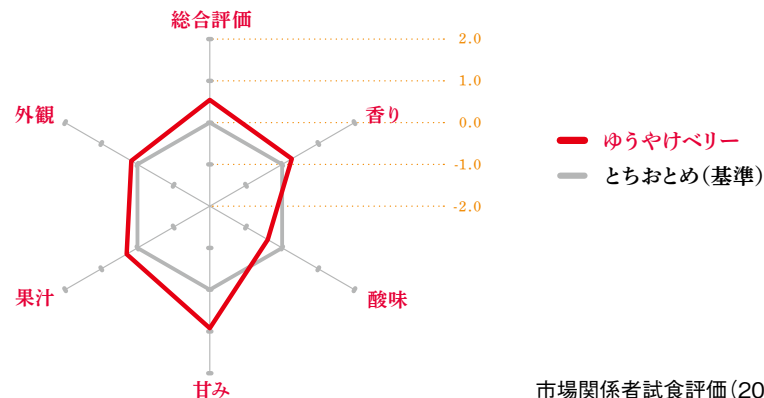
香りの良さも抜群で、ほおぼるとジューシーな果汁と優しい甘さとともに華やかな香りが口いっぱいに広がります。

果実は橙色がかかった赤色で美しい円錐形の大粒です。収穫開始時期が早いいため、クリスマスや年末年始の食卓を鮮やかに彩ります。



ゆうやけベリーの食味評価

ゆうやけベリーはとちおとめと比較しても、甘みと香りの強さが際立っており、高い評価をいただいています。



市場関係者試食評価(2021年)

ふくしまの

「そば」^{わけ}がおいしい理由



福島県では会津地方を中心に県内全域で栽培されており、栽培面積は令和5年で3,760haと全国で5位となっています。

高冷地での栽培が盛んで、昼夜の温度差により、風味が豊かで良質な玄そばが生産されています。

会津地方では「ハレの日」

のご馳走として白く透き通るコシのある十割そばが振る舞われ、もてなし側がお客様にそばのほめ言葉を節をつけて演ずる「そば口上」で座を盛り上げていました。

また、県内における食べ方は様々で、「裁ちそば」「高遠そば」「はっとう」「でんがく」など、郷土食豊かな伝統料理が各地の食文化として根付いています。



そばの花

≪ 福島県オリジナル品種「会津のかおり」誕生秘話 ≫

福島県農業試験場会津支場（現福島県農業総合センター会津地域研究所）が会津地方を中心に栽培されている各地の在来種を収集し、個体選抜と系統選抜を繰り返し、優良な系統を選抜しました。この系統は「会津3号」と名付けられ、現地での栽培試験を経て、平成19年に「会津のかおり」が誕生しました。現在では、県内で約840ha（令和5年）栽培され、県内外の多くの「そば通」を唸らせています。

ふくしまの

「ほんしめじ」^{わけ}がおいしい理由



「香り松茸、味しめじ」と言われるしめじは、「ほんしめじ」のことです。福島県が日本で初めて自然栽培に成功した、ほんしめじの福島県オリジナル品種「ふくふくしめじ」。野生のほんしめじと比較しても遜色のないおいしさを実現しました。大型で味と香りの良さはもちろん、身がしまり、歯切れ・舌触りが良く、噛むほどにきのこの繊維がほどけます。

様々な料理と相性抜群

「ふくふくしめじ」は和洋中ジャンルを問わず様々な料理と相性抜群。優美な香りと深いうま味を、余すことなく披露してくれるでしょう。

【和食】汁物、網焼き、炊き込みご飯

【洋食】パスタ、グラタン、ソテー

【中華】スープ、炒め物など



収穫時期

9月

10月

11月

12月

ふくふくしめじ

ふくしまの

「なめこ」

わ け
が おいしい理由



福島県のなめこの菌床栽培は昭和38年頃から、福島県相馬郡ではじめられました。その後、なめこの菌床栽培が全国に普及した結果、高級だったなめこが各家庭で食べられるようになりました。

現在、福島県では、中通り・浜通りを中心に年間を通して安定的に生産、出荷がされています。

なめこには水溶性食物繊維(ペクチン様物質)が多く含まれており、体に優しい食材です。これが、独特の「ぬめり」を作りだしており、おいしさの理由となっています。

なめこ汁やなめこおろしなどの定番メニューのほか、天ぷらやピザ、麻婆豆腐など和洋中様々な料理にも使えますので、ぜひお試しください。

福島県内では、各地域の山菜、きのこ等を活かした料理が受け継がれてきました。

なかでもきのこは、様々な郷土料理に欠かせない素材として使われてきましたが、食文化の多様化などから、それらの本来の味が忘れられようとしています。

そこで、福島県では「本来の天然なめこの再現」をコンセプトに品種開発を進め、秀峰「飯豊山」の麓にある西会津町の天然なめこを起源とする福島N5号と福島N6号の2品種を開発しました。

おもな品種の特性

最大の特徴は、なめこ本来の風味と味の濃さです。どんな料理にも合う食材なので、ぜひ、ふくしまの恵み豊かな山の幸をご堪能ください。



福島N5号

大型で明黄色。

10月下旬から12月下旬に発生
緻密な肉質感と深い味わいが特徴です。



福島N6号

やや大型で褐色。

11月中旬から12月下旬に発生
シャキシャキとした歯切れの良さ
とさわやかななめこの風味が特徴です。

福島N5号、 福島N6号を 使った料理



ふくしまの
ふく しま ぎゅう

「福島牛」がおいしい理由



「福島牛」とは、福島県内で肥育・生産された黒毛和牛です。

その中で特に公益社団法人日本食肉格付協会の定める肉質等級4等級以上のものが銘柄「福島牛」として本県産牛肉の最高ブランドに位置づけられています。

色鮮やかで良質の霜降りを持つ「福島牛」は、本県産和牛の特性を生かし、県内の畜産農家により大切に作り上げられた逸品であり、風味豊かでまろやかな味わいを持つ牛肉です。

また、本県では種雄牛などのDNAを検査して遺伝的能力を評価するゲノミック評価やAI(人工知能)を活用した最新の肉質診断技術を取り入れて高品質な牛肉の生産を支援し、「福島牛」のブランド力向上を図っています。

≡ 福島牛の歴史 ≡

本県の和牛は、猪苗代湖や磐梯山、阿武隈高原など県内各地の豊かな自然と生産農家の愛情に育まれながら生産されてきました。

「福島牛」の名が全国に知れ渡ったのは平成10年の全国肉用牛枝肉共励会において日本一の栄誉である名誉賞に輝いたのが大きなきっかけです。その後も枝肉共励会において、最優秀賞を受賞するなど、高く評価されています。

≡ 福島牛「福粕花」について ≡

福島牛「福粕花」とは、出荷前の90日間、1日あたり100gの県産酒粕パウダーを給与して育てた牛で、肉質等級5等級の福島牛です。柔らかくジューシーで、脂の甘味が強いことが特長です。本県産牛肉に新たな付加価値として、「福島ならではの特色」と「おいしさ」を重視した牛肉を生産するため、JA全農福島、福島大学と連携し、令和3年度から4年かけて開発しました。



きかんしゅうぎゅう

基幹種雄牛の紹介

県では、全国レベルの肉質と肉量などの遺伝的能力の高い種雄牛を、県農業総合センター畜産研究所に11頭繁殖させています。

なかでも、歴代の県基幹種雄牛と比較して優れた枝肉成績を誇る「隆福久(たかふくひさ)」が、令和6年1月に県基幹種雄牛に選抜されましたので紹介します。

「隆福久」は、平成30年6月に平田村で生まれました。「隆福久」の母「みちよ」は、和牛業界を代表する「安福久」を父に持ち、県内でも特に優秀な雌牛です。その「みちよ」に、糸桜系種雄牛「隆之国」を交配して誕生しました。

今後、福島県の新たなエースとして、県内の和牛改良や産地の活性化に大きく貢献すると期待されています。



福島県新基幹種雄牛「隆福久」

ふくしまの

「会津地鶏」がおいしい理由^{わけ}



会津地鶏は、地鶏としては比較的柔らかい肉質ですが、脂には深いコクがあります。

強健で発育もよく、平飼い(鶏舎内において、鶏が床面(地面)を自由に運動できるようにして飼育する方法)で飼育されています。

日齢を重ねるほどコクも増していくため、平飼いによる長い飼育期間が、会津地鶏の特徴的なおいしさを生み出しています。



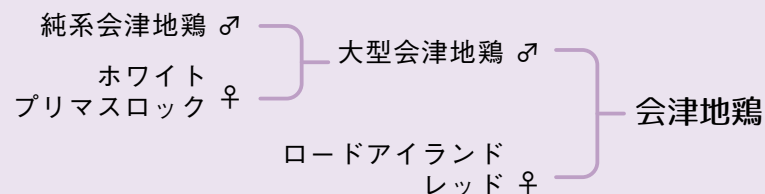
「会津地鶏」誕生秘話

会津地鶏(原種)の歴史は古く、黒く長い尾羽は、春の彼岸に舞われる「会津彼岸獅子」の獅子頭に使用されるなど、会津の人々に古くから親しまれてきました。しかし、一般の鶏と比較して、体が小さく産卵数も少なかったため、飼育する人も少なくなり、絶滅寸前になっていました。

このような中、県農業総合センター畜産研究所は、昭和62年に会津地方の各地から純粋種の譲渡を受け、調査した結果、県固有の品種であることを確認しました。

その後、県畜産研究所では、純粋種の維持増殖を図りながら、肉用鶏としての交配様式を確立しました。

会津地鶏の交配様式



会津地鶏の特徴

肉用として改良した会津地鶏の雌鶏は、楊柳色の脚、雄鶏は美しい羽装が特徴です。強健で発育もよく、平飼いで100~140日間飼育されています。

会津地鶏の肉は、良質な脂・コク・旨みに優れ、様々な料理に向いています。焼き鳥や地鶏そば・鍋もの等に使用され、大変好評を得ています。鶏特有の臭みも少なく、和風・洋風を問わずどんな料理にも合います。



地理的表示(GI)保護制度登録

令和7年3月18日に、「会津地鶏」が地理的表示(GI)保護制度に登録されました。



ふくしまの

「川俣シャモ」がおいしい理由^{わけ}



川俣シャモのプリプリとした歯ごたえと優れた旨味は、県農業総合センター畜産研究所で確立された交配様式によるものです。

たっぷり運動しても肉が固くならず、適度な歯ごたえを感じることができる上に、噛みしめるたびに濃厚な旨味が溢れます。

どんな料理にも合いますが、特に、しゃも鍋スープは絶品です。東京の有名店や、県内でも多くの飲食店で扱われています。川俣町ではシャモまつりを開催し、世界一長い焼き鳥や丸焼きに挑戦するなど、町が一体となって川俣シャモをPRしています。



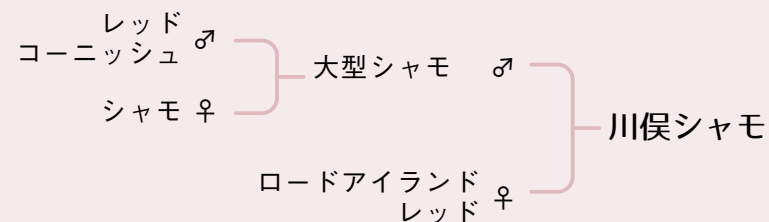
≪「川俣シャモ」誕生秘話≫

古くから養蚕業、絹織物の町として栄えてきた川俣町では、江戸時代から、絹織物で財をなした人々の娯楽として、シャモによる闘鶏が盛んでした。

川俣町では、シャモを用いた町おこしのため、昭和62年に株式会社川俣町農業振興公社を設立し、生産から加工販売まで一貫管理してきました。

昭和60年に県農業総合センター畜産研究所で、シャモを取り入れた肉用鶏の開発試験が開始され、生産性の高い交配様式を確立し、平成9年から普及が図られています。

川俣シャモの交配様式



川俣シャモの特徴

肉用として改良した川俣シャモは、赤い羽装と三枚冠が特徴です。強健で発育もよく、飼育場では十分に運動できる面積を確保し、平飼いで飼育されています。

令和2年2月21日に、川俣シャモの生産者でつくる「川俣シャモ振興会」が、「JGAP（農産物の安全性などを管理するGAPの国内認証）」の団体認証を取得しました。

肉用鶏の団体認証は全国で初めてで、安全と品質にこだわった生産工程を実践しています。



地理的表示(GI)保護制度登録

令和4年3月31日に、「川俣シャモ」が地理的表示(GI)保護制度に登録されました。



ふくしまの

「ヒラメ」^{わけ}がおいしい理由



ヒラメは、福島県の水産物を代表する魚です。「潮目の海(P.34図)」である福島県沖で育つヒラメは、「常磐もの」として大変美味しいと評判で、東日本大震災前の築地市場では、市場全体のヒラメ活魚取引価格の1.2~1.5倍で取引され、高い評価を受けてきました。

平成の初期には、福島県のヒラメの漁獲量は大きく減ってしまいました。このため、福島県では、漁業者と県が一丸となって、全長30cm未満の小型魚の保護や稚魚を育てて放流する栽培漁業に取り組み、ヒラメを増やす努力をしてきました。この結果、令和5年には県の統計の開始以来で最高の漁獲量を記録し、また全国3位の漁獲量を誇る、全国有数の産地となっています。

震災後のヒラメ

東日本大震災後、沿岸漁業を休んだこともあり、ヒラメの資源量は増え、現在はサイズの大きいヒラメに限定して水揚げされています。また、朝に獲ったヒラメをその日のうちに水揚げしていることから、より新鮮で活きの良いものが出荷されています。



≡ 漁師を支える浜の母ちゃんたち ≡

福島県の漁業を支えているのは、船に乗っている父ちゃんだけではありません。水揚げが始まると、ここからは漁師の妻たちの出番です。「陸(おか)の魚は、女が仕切る。」といわれ、水揚げされた魚の選別からせりまでは女性が一切仕切ります。

このほか、浜の母ちゃんたちは、水産業の復興に向けて、県内外のイベントや料理教室等で郷土料理のPRに努めています。



ふくしまの

「海産物」^{わけ}がおいしい理由

福島県の海は、南からの暖かい海流「黒潮」と、北からの栄養豊かな冷たい海流「親潮」が混ざり合う「潮目の海」です。

このため、多種多様な魚種がたくさん生まれ、世界有数の豊かな漁場が形成されています。

多様な魚種に対応して、まき網（カツオなど）、底びき網（ヒラメ、カレイ、メヒカリ、タコ類など）、船びき網（コウナゴ、シラスなど）といった様々な漁業が行われています。

ふくしまの豊かな海が育んだ海の幸をぜひ味わってください。



おもな海産物



メヒカリ

深海性で、目が大きく青く光っていることから、メヒカリと呼ばれています。見た目は地味ですが、淡泊な白身で皮が柔らかく、丸ごと食べられ、味は最高です。福島県産のものは、脂の乗りが良く、刺身、唐揚げ、天ぷら、素焼きなど、様々な調理方法でおいしくいただけます。



ホッキガイ

ホッキガイは大型の二枚貝で、主に北海道や東北の浅い海に棲んでいます。

福島県で獲れるホッキガイは、特に旨味が強いのが特徴です。刺し身や定番の郷土料理「ホッキ飯」はもちろん、天ぷらやカレーなども大変おいしく、好評です。

ウニの貝焼き

福島県で獲れるウニは、キタムラサキウニという種類です。

生でも大変おいしいのですが、ホッキガイの殻に盛り付けて、蒸し焼きにした「貝焼き」は、風味、甘みとも豊かで大変おいしく、高級品として贈答用にも喜ばれています。漁師さんがそれぞれの地区の加工場において、貝に盛り付けたウニを鍋に敷いた小石に乗せて蒸し焼きにする手作業の郷土料理なので、漁師さんによって様々な工夫がなされ、こだわりの逸品として提供されています。



ふくしまの

「伝統野菜」がおいしい理由

伝統野菜とは、長年にわたり自家採種を繰り返してきた在来種の野菜です。福島県には、昔からその地域の人々や風土に生まれ、生活に溶け込んできた伝統野菜があります。その土地の気候風土にあっており、病気にかかりにくく、味や栄養価の高い野菜ができると言われています。

おもな伝統野菜

信夫冬菜(福島市)

福島市内で桑栽培者の秋冬期間の作物として栽培され、地域の旧郡「信夫」が名前の由来とされています。光沢のある緑色で柔らかい葉を持つ漬け菜で、苦みやアクが少なくまろやかな甘さが特徴です。厳寒期の葉は緑色の濃さが増します。



阿久津曲がりねぎ(郡山市)

葉の白色の部分が弓状に曲がったねぎで、柔らかさと甘み・旨味の強さが特徴です。夏にねぎを掘り起し斜めに植え替える「やとい」の作業を経て旨味の増したねぎが生産されています。令和4年2月3日、地理的表示(GI)保護制度に登録されました。



奥会津金山赤カボチャ(金山町)

全体が鮮やかな橙色で、底部に大きなへそがある扁平型をしているかぼちゃです。皮が薄くて柔らかくコクのある甘みの特徴です。支柱につるをトンネル状に絡ませて実を地面にふれずに栽培することにより、色むらがなく形の揃ったかぼちゃが生産されています。



会津丸茄子(会津若松市)

光沢のある濃い紫色で巾着の形をしたなすです。実が大きく引き締まっているため、歯ごたえが良く、火を加えると甘味が出るため、加熱調理がおすすめです。



いわきとっくり芋(いわき市)

ふっくらとした丸みを帯びた徳利の形をしたやまいもです。長芋と自然薯の中間ほどの粘りを持っていて、クセやアクが少なくほんのりとした甘みがあるのが特徴です。深く耕した土で育てることで形の整ったやまいもが生産されています。



TOPIC 01

福島県は農林水産物の放射性物質検査結果を公表しています。

福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報
<https://www.new-fukushima.jp>



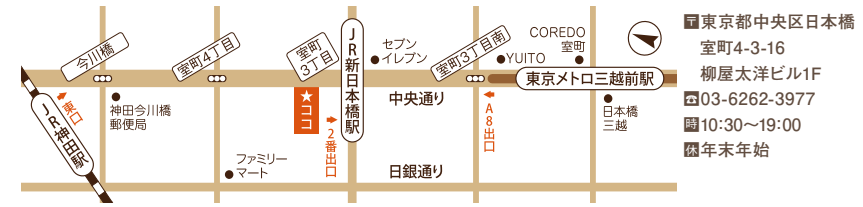
TOPIC 02

日本橋でも、ふくしまの魅力を感じてください。

ふくしまの「今」と「魅力・元気・活力」を発信する

日本橋ふくしま館

M I D E T T E



TOPIC 03

ふくしまの生産者のプライドが詰まった農林水産物をご紹介します。

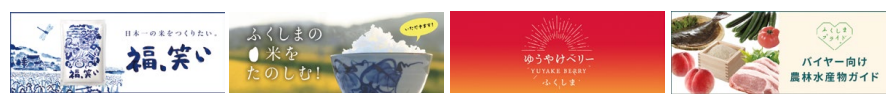


くわしくはコチラ →

<https://fukushima-pride.com/>

ふくしまプライド 検索

各種サイトもふくしまプライド。ポータルサイトからご覧いただけます



ふくしま農林水産物カレンダー

品目	主要産地	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
穀類	米	県内全域											
	大豆	県内全域											
	麦	会津地方、相双地方											
	そば	会津地方、南会津地方											
果菜類	きゅうり	須賀川市、伊達市、二本松市											
	トマト	南会津町、白河市、いわき市											
	ミニトマト	新地町、喜多方市、伊達市											
	ピーマン	田村市、三春町、二本松市											
	なす	須賀川市、二本松市、郡山市											
カボチャ	会津若松市、二本松市、南相馬市												
きのこ類	さやえんどう	伊達市、二本松市、須賀川市											
	スナップえんどう	伊達市											
	グリーンピース	伊達市											
	さやいんげん	田村市、須賀川市、会津美里町											
	えだまめ	郡山市											
野菜類	アスパラガス	喜多方市、会津若松市、南会津町											
	ブロッコリー	南相馬市、中島村、白河市											
	ほうれんそう	郡山市、矢吹町、磐梯町											
	キャベツ	郡山市、矢吹町											
	モロヘイヤ	中島村											
	つるむらさき	中島村、泉崎村											
	ミズナ	中島村、田村市											
	しゅんぎく	伊達市、南相馬市											
	にら	伊達市、須賀川市											
	ねぎ	いわき市、郡山市											
みつば	いわき市、矢吹町												
根菜類	だいこん	郡山市、南相馬市											
	ばれいしょ	郡山市、南相馬市											
	ヤーコン	天栄村											
	ナガイモ	本宮市											
きのこ類	葉ねぎ	いわき市											
	たらの芽	喜多方市、川俣町											
	あさつき	二本松市、郡山市、福島市											
花物類	宿根かすみそう	昭和村、柳津町、南会津町											
	トルコギキョウ	会津若松市、郡山市、喜多方市											
	さくら	福島市、郡山市、川俣町											
	もも	福島市、いわき市、川俣町											
	ユキヤナギ	須賀川市、福島市											
	輪ざく	会津美里町、伊達市											
	小ざく	福島市、川俣町、新地町											
	スプレーざく	二本松市											
	りんどう	南会津町、下郷町、国見町											
	ストック	会津若松市、会津坂下町											
新鉄砲ゆり	須賀川市												
カラ	猪苗代町、南会津町												
鉢物類シクラメン	矢祭町、中島村、郡山市												
鉢物類ポインセチア	矢祭町												
果実類(せせ)	もも(はつひめ)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(日川白鳳)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(ふくあかり)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(曉星)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(あかつき)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(まどか)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(黄金桃)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(川中島白桃)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(ゆうぞら)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
	もも(黄貴妃)	福島市、伊達市、桑折町、国見町											
もも(さくら)	福島市、伊達市、桑折町、国見町												
果実類(せ)	なし(幸水)	福島市、須賀川市、相馬市											
	なし(豊水)	福島市、須賀川市、相馬市											
	なし(二十世紀)	福島市、須賀川市、相馬市											
	なし(あきづき)	福島市、須賀川市、相馬市											
	なし(新高)	福島市、須賀川市、相馬市											

品目	主要産地	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
果実類(せせ)	ぶどう(あづましずく)	福島市、伊達市、会津若松市											
	ぶどう(巨峰)	福島市、伊達市、会津若松市											
	ぶどう(高尾)	福島市、伊達市、会津若松市											
	ぶどう(シャインマスカット)	福島市、伊達市、会津若松市											
	ぶどう(ピオーネ)	福島市、伊達市、会津若松市											
果実類(せ)	りんご(さんざ)	福島市、須賀川市、会津若松市											
	りんご(つがる)	福島市、須賀川市、会津若松市											
	りんご(シナノスイート)	福島市、須賀川市、会津若松市											
	りんご(ジョナゴールド)	福島市、須賀川市、会津若松市											
	りんご(陽光)	福島市、須賀川市、会津若松市											
	りんご(王林)	福島市、須賀川市、会津若松市											
	りんご(ふじ)	福島市、須賀川市、会津若松市											
りんご(べにこはく)	福島市、須賀川市、会津若松市												
その他の果実	いちご	伊達市、いわき市											
	梅	須賀川市、川俣町、郡山市											
	さくらんぼ	福島市、須賀川市、会津若松市											
	ずもも(大石早生)	伊達市、福島市											
	ずもも(ソルダム)	伊達市、福島市											
	いちじく	いわき市											
	西洋なし(ラ・フランス)	福島市、須賀川市、喜多方市											
かき(会津身不知)	会津若松市												
あんほ柿	伊達市、国見町、桑折町												
菌茸類	なめこ(福島N5号)	白河市、泉崎村											
	なめこ(福島N6号)	白河市、泉崎村											
	原木しいたけ(露地)	県内全域											
	原木しいたけ(施設)	県内全域											
	菌床しいたけ(施設)	県内全域											
	原木なめこ	会津地方、南会津地方											
	菌床なめこ	郡山市、いわき市											
	きくらげ	西会津町、石川町、泉崎村											
	エリンギ	いわき市											
	ひらたけ	伊達市、福島市											
ほんしめじ	伊達市、大熊町、埴町、下郷町												
畜産物	福島牛	県内全域											
	会津地鶏	会津若松市、三島町											
	川俣シャモ(ふくしま赤シャモ)	川俣町											
	うつくしまエゴマ豚	喜多方市、泉崎村											
	県産牛乳・乳製品	県内全域											
はちみつ	県内全域												
魚介類	メヒカリ	相馬市、いわき市											
	青ノリ(バラ干し)	相馬市											
	カツオ	いわき市											
	ウニ	相馬市、いわき市											
	アワビ	いわき市											
	ホッキガイ	相双地方、いわき市											
	サンマ	いわき市											
	ヒラメ	相双地方、いわき市											
	マガレイ	相双地方、いわき市											
	アンコウ	相馬市、いわき市											
あさり	相馬市												
トラフグ	相馬市												
イセエビ	いわき市												
淡水魚	イワナ(養殖)	会津											
	コイ(養殖)	県中											
	ニジマス(養殖)	県南、南会津											
在来希少作物	信夫冬菜	福島市											
	阿久津曲がりねぎ	郡山市阿久津地区											
	奥会津金山赤カボチャ	金山町											
	会津丸茄子	会津若松市											
	いわきとっくり芋	いわき市											
	余時胡瓜	会津若松市											
	ちりめん蓬立	会津若松市											
	会津小菊南瓜	会津若松市											
	慶徳タマネギ	会津地方、喜多方市慶徳町											
	笹若カブ	南会津町笹若											
アザミゴボウ	会津坂下町立川集落												
アザキ大根	金山町												



ふくしまが
おいしい理由

福島県農林水産部 農産物流通課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16

TEL.024-521-7371 FAX.024-521-7942

令和8年3月発行



リサイクル適性[®](A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。